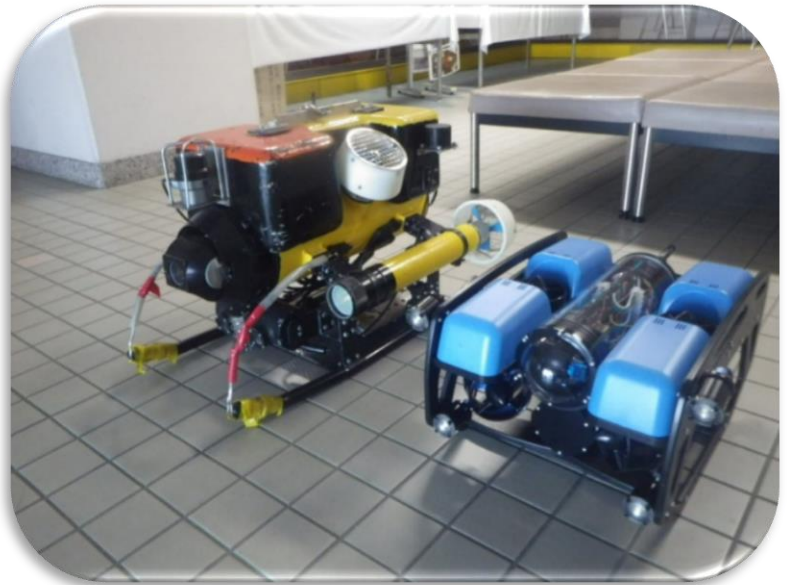


水中ドローン(R.O.V.)を活用した水中調査

～水中ドローンの性能～

相模湾試験場は2種類の水中ドローンを所有しています。①Q.I.社製DELTA-150(画像黄色)。水深200mまで潜行することが出来ます。この水中ドローンは有線式で、300mのケーブルで制御機や操縦機と接続されており、船上から操縦機を使って、海中にある「ビーグル」を操作します。「ビーグル」は大きさが70cm×55cm×45cmくらいで、上昇・下降用スクリューが2基、前進・後進・左右旋回用スクリューが2基備えられており、これらの推進力を組み合わせて、3次元的な動きが可能です。また、カメラとライトを備えており、海中の様子を撮影できます。②BlueRobotics社製BlueROV2(画像青色)。水深100mまで潜行することが出来ます。この水中ドローンはDELTA-150よりも本体、ケーブル、操縦機すべてが軽量になっています。大きさは46cm×34cm×25cmくらいで、スクリューは計6基備えられており操縦性能も向上しています。こちらは利便性が高い水中ドローンとして使用しています。



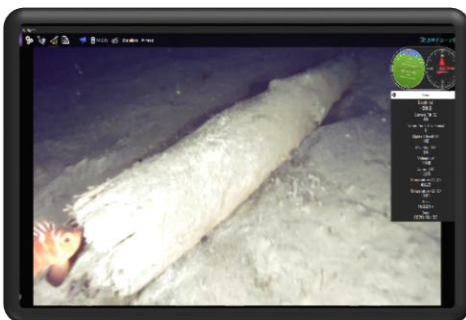
～水中ドローンのメリット～

水中ドローンを使うことで、100m、200mといった、人間では通常潜れない深い場所での調査が可能です。人間の場合、水中での滞在時間に制限がありますが、水中ドローンの場合は制限がなく長時間の水中調査が可能です。さらに吊り下げ式カメラと異なり、水中を自在に移動することが出来ます。

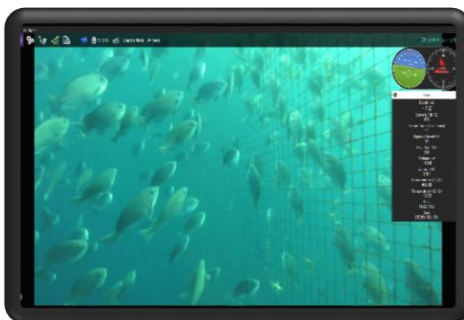
～水中ドローンを使った調査目的～

相模湾試験場では、水中ドローンを使って、定置網の碇(いかり)やロープ、海中の網敷設状況、海底障害物の存在、藻場分布状況、魚礁の設置状況などを調査しています。

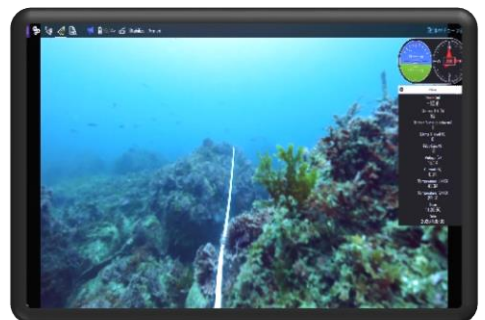
(酒匂川河口の流木)



(定置網の様子)



(藻場調査)



※「R. O. V. 」とは「Remotely Operated Vehicle」の略称で、直訳すると「遠隔操作無人探査機」という意味です。

【問合せ先】

住所 神奈川県小田原市早川1-2-1 電話 0465-23-8531

神奈川県水産技術センター相模湾試験場